



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	馬（サラブレッド、アラブ、アングロアラブ）がセリ市で売られるまでの牧場技官の仕事と内容
Author(s)	中城, 敏明
Description	北海道大学農学部技術部職員研修(第4回) 研究・技術発表
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 3, 9-16
Issue Date	1996-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35307
Type	departmental bulletin paper
File Information	3_p9-16.pdf



馬（サラブレッド、アラブ、アングロアラブ）がセリ市で 売られるまでの牧場技官の仕事と内容

附属牧場 中城 敏明（環境・飼育系 家畜飼養班）

1、はじめに

私たちの勤務する農学部附属牧場にはサラブレッド種が5頭、アラブ種が1頭、アングロアラブ種が2頭の繁殖牝馬がいます。繁殖牝馬というのは子供を生ませるための成馬の牝の事を言います。この繁殖牝馬について最初に私達がする仕事は、牧場にいる繁殖牝馬にどの種馬を交配させるか、という事です。

胆振、日高管内には約514頭の種牝馬がいます。その中で血統、現役時代の成績、競走年齢に達した産駒の競走成績、仔出しの良さ、この2-3年の人気、交配料、何処にいるか、などを考慮して、馬主、又シンジケートの代表と交渉にあたります。しかし私たちの希望どうりの馬が交配出来るとはかぎりません。なぜなら、血統が良くて人気のある馬は、交配の申し込みが非常に多く1年の交配予定頭数を越えてしまうし、交配料が何百万円、1千数百万円と言うのがたくさんいるのです。

限られた予算の範囲で牧場の繁殖牝馬全頭交配させなければなりません。そのためにランクを少し落とすなどして馬主やシンジケート代表と交渉をつづけなければならないのです。

何回かの交渉のすえ交配をしていただける事になります。又、交配料に関しては（ノミネーションセール）により変動する事があります。この様な作業が何回かつづき、全交配馬がきまることとなります。

日本で競走につかっている軽種馬にはサラブレッド種とアラブ種、及び両種を交配したアングロアラブ種の三品種がありますが、品種ごとに交配できるのは以下の組み合わせです。

サラブレッド×サラブレッド＝サラブレッド

サラブレッド×アラブ＝50アラブ（アラブ血量50パーセント）

アラブ×サラブレッド＝50アラブ

アラブ×アラブ＝アラブ

アラブ×50アラブ＝75アラブ（この様な交配は普通しない）

アラブ×75アラブ＝87.5アラブ（この様な交配は普通しない）

50アラブ×サラブレッド＝25アラブ（この様な交配が多い）

50アラブ×50アラブ＝50アラブ

50アラブ×25アラブ＝37.5アラブ

25アラブ×25アラブ＝25アラブ（この様な交配が多い）

軽種馬と言うのは普通一般にサラブレッド、アラブ、50アラブ、37.5アラブ、25アラブを言います。アラブ100とは普通言わない。50、37.5、25と言うのは血量をパーセントで表しています。一般に50、37.5、25アラブはア、ア、もしくはアングロアラブと言います。

2、分娩

さて交配馬が決まり、いつ交配するかと言う事になります。交配期間は3月から7月10日頃までとなっておりますが、その前に前年度交配した繁殖牝馬が分娩時期にきており、これらを無事に分娩させなければなりません。

分娩期間は2月－7月の間に集中します。馬の妊娠期間は約11カ月といわれています。分娩日の近づいた馬については、何日に生まれるのか見きわめなくてはなりません。あらかじめ分娩日は推定してあるのですが馬によっては1ヵ月もずれる事があるのです。この時期繁殖牝馬を毎日よく観察する事は非常に大切なことです。毎日よく観察していると馬の歩き方、はしりかた、動作などが少しずつ変わっていきます。もちろん外陰部がゆるくなってきますし、乳房もはってきます。母馬は自分のおなかを時々見る様になります。

分娩は夜に多く昼間は殆どありません。過去20年間に2頭ありました。したがって、宿直者が分娩に立ち会う事がほとんどです。当牧場では宿直者もしくは日直者が必ず一人りおります。まえもってテレビカメラを生まれそうな馬の馬房に付けておきます。そして宿直者は今日生まれるかもしれないと言う事で、宿直室にあるテレビモニターを見ながら注意ぶかく観察します。この時期分娩は馬だけではなく、牛も分娩時期に入っています。テレビモニターは2台ですが7分割になり1度に7画面が見れるので馬と同時に牛も監視します。

分娩は1晩に馬が2頭、牛が4－5頭生まれる事もあります。全頭立ち会う事になります。全部が安産で生まれるとは限りません。初めて分娩する馬、牛は難産が多く気を抜く事は出来ません。

夜中などに難産があった時などは一人ではどうしようもありません。そんな時は職員の自宅に電話をして応援してもらいます。時には町にいる獣医師に電話して、17キロも離れた牧場迄来てもらう事もあります。あまり長い時間難産が続くと、親も仔も死んでしまう事があるのです。ですから分娩が始まると出来るだけ早い時間に仔をとりあげなければ成りません。

この様な出来事が起こらない様に当直者は常に気を配らなければならなく、夜、眠る事が出来ない日も時々有るのです。

仔馬が産まれてもまだ安心できません。羊水を飲んでいないか、へその緒がちゃんと切れているか、♂なのか、♀なのか、足は曲がっていないかなどを慎重に確認します。何か異常が有ると直ちに処置しなければなりません。

一方繁殖牝馬は分娩前に黄疸検査を行います。黄疸検査の結果、陽性、陰性が示されます。その結果陰性だと問題有りませんが陽性だと72時間、24時間、12時間、親の乳を飲ませてはいけないと言う事になります。その間親の乳は搾り捨てます。しかし、仔馬に乳を飲ませなくてははいけません。他の馬の乳又は人工乳を飲ませます。軽種馬の産地日高地方では農家によっては乳母と言われる馬も飼われている様です。2月初めから5月末頃迄分娩がつづきます。

仔馬が産まれてまず最初は立つ事が出来るか無事に立っても自分で乳を飲む事が出来るか確認します。なぜ仔馬がすぐに乳を飲まなくてはならないのかと言いますと、仔馬は微生物の感染から身を守る為に必要な免疫抗体を持たずに産まれて来ます。この免疫グロブリンは初乳中に含まれ哺乳されたのち血中に抗体が移行し感染防御効果を発揮しますが、それには48時間ほどかかります。免疫成分は時間と共に減少して、8時間後には3時間以内のものに比べ約1/6になると言われています。また腸管からの免疫グロブリンを吸収する能力は生後24時間を超えると無くなってしまいます。そのためにはなるべく早く飲ませる事が大切です。理想としては6時間以内ですが、どうしても自分で飲む事ができない仔馬、又は乳の有るところを捜し当てる事が出来な

い仔馬は人間が誘導して乳の有るところに鼻先を付けて乳の有る場所を教えてあげます。たとえそれが夜中でも、無事に乳も飲む事が出来ました。でもまだ安心は出来ません。仔馬の排便を確認しなければなりません。最初はなかなかでませんので、そのために浣腸をします。1回で出る馬もありますが、2回、3回と浣腸をする事が必要な馬もあります。この様にして最初の排便を確認します。

産まれた仔馬は2日間位親と一緒に馬房の中に入れておきます。3、4日目に天気が良ければ外に放します。この時仔馬は生まれて初めて外に出るわけですから、やみくもに走り回ります。柵などにぶつからないようにしばらくの間注意して見守らなければなりません。最初の日は2時間位、2日目は4時間位と徐々に長い時間放牧するようになります。この間親子は他の馬と分けて放されます。

親も仔も慣れてきたら他の馬と一緒に馬群の中に放します。この時もまた他の馬に蹴られないか、かじられないか注意していなければなりません。この時期仔馬は草を食べるわけではありません。乳を飲むだけです。時間を持て余して仔馬どうしじゃれあったり、跳びはねたりしています。放牧中は特に足などのケガに注意していなければなりません。

この他母馬や他の牝馬も草の食べ過ぎによる腹痛等も注意していなければなりません。

3、交配

さてこの様な作業が続き分娩から5、6日がたちました。今度は今年交配する牝馬に発情がないかどうか確認しなければなりません。

まず朝1番に試情（あて馬）をします。牝馬に牡馬を近づけて反応を見るわけです。牝馬にその気が無ければ蹴ったりあばれたり、もう大変です。少し位発情があっても同じ様な動きをします。私たちはその動きの中からまったく発情が無いのか、少し発情があるのか判断します。この様な作業は分娩日より6日目から8日目位まで行います。発情のめやすは8日目位ですが発情が早く来る馬、遅く来る馬がいます。

発情の有る無しは、次の様な点をポイントにして見分けます。

- 1) 腰を落として尿意をもよおす。
- 2) ちつ粘膜が充血している。
- 3) 牡馬が接近してもおとなしい。
- 4) 陰部より粘着性のある液をだす。

発情があると判断したなら直検をしてもらうため獣医さんをよびます。この時期獣医は大変忙しく電話をしてもすぐ来てくれるとはかぎりません。その日の夕方に来てくれると職員2人立ち会う事が出来るのですが次の日の朝早くだと宿直者が1人で立ち会います。

さて直検（直腸検査）とは牝馬の肛門より手を入れて腸の壁越しに子宮内の卵胞の成長具合を触診して排卵期を予測する事です。

獣医さんが来たら発情のある馬を枠場という所にいれて検査をしてもらいます。検査の結果はその馬によって違いますが卵胞が左右に有る馬、どちらか一方に有る馬がいます。卵胞もその大きさ、硬さによって何段階かに分けられます。卵胞の大きさは2.0～3.0と言う記号で表されています。卵胞の状態と交配の実施は例えば以下の様になっています。

- 1) 左右どちらかに卵胞があり大きさ2.8で柔らかいとき次の日朝交配する。
- 2) 左右両方に卵胞があり左2.5、右2.8両方柔らかいとき双子の可能性が高いので交配しない。
- 3) 左右両方にあっても左2.5、右2.8で左硬い右柔らかい時交配する。

この様な判断を獣医さんと相談して決めます。

交配すると決めたらすぐに以前から決めてあった種牡馬を申し込みます。申し込みは夕方5時から7時迄、朝6時から7時迄と一応の取り決めがあって時間外は申し込みを受付けてくれない時もあるのです。又当日交配希望の種馬に4頭以上の馬が申し込んでいる時も有ります。しかし種馬は1日3回しか交配をしません。そんな時、朝7時頃迄に全頭集まって、もう一度種場所の獣医さんによって直検をして排卵の時期が一番早い順番に交配をしてもらいます。しかし一日三回しか交配しないので4頭目の馬は次の日の朝と言う事になります。やむなく次の日出直して行くのですが排卵してしまう事も有るのです。そのような時は次の発情期が来るまでもう三週間待たなければなりません。

実際の交配は種馬所内の屋内運動場の様な交配所で行なわれます。交配しようとする牝馬は太いロープを体にまかれ、太い丸太（横棒）に縛りつけられ、後ろ足には蹴っても被害を最小限にするための皮の靴を履かされて、鼻ねん（馬の鼻をねじるもの）をかけられて動かせないようにしておこないます。この様な一連の作業の中で一頭の馬の交配が終わるわけです。

私たちの牧場では交配の為に移動する範囲は、日高管内全域 胆振管内苫小牧、早来町としており、牝馬の発情の周期は

- 1) 最初の分娩より6日目位から10日目
- 2) その後排卵日より18日目位から23日目
- 3) 次の排卵日より18日目位から23日目

をめやすにしています。

交配も終わりますは一安心と言うところですが、まだ終わったわけではありません。2日後排卵確認をするため獣医さん呼びます。獣医さんが来て、交配馬をわく場にいて、もう一度直腸検査をしてもらいます。

今度は排卵検査です。排卵していればいいのですが排卵していないと又三週間後に交配しなければならぬのです。排卵していても受胎しているわけではありません。三週間後もう一度試情、直検をして発情がなければ、受胎していると判断します。

この一連の作業のうち試情、直検、交配時は大変危険な作業となります。試情する馬は発情のある馬とは限りません。発情の無い馬は、牡馬が近づくだけであばれます。人間一人位の力では抑えきれぬものではありません。ですから何とか工夫して枠の中に入れたりロープで囲いをしたりしています。牡馬も一人で抑えるのですから大変危険です。立ち上がった時、蹴った時にはかみついたりします。引いて歩くときも気を抜く事は出来ません。常に気をつけていなければケガをする事になります。

直検の時は枠馬に入れますがこの時も入るのを嫌がって蹴ったり、急にバックしたり、回ったりします、十分な注意が必要です。

さらに交配時は特に注意が必要となります。馬にしてみれば知らない場所でたくさんの人達に囲まれてロープは巻かれるわ、木には縛られるわ、あちこちさわられるわ、ですから緊張のピークにはちょっとした物音や動作によって突然暴れたりするのです。馬を抑えている人、周りにいる人は十分注意が必要です。毎年この様な作業で何人もの人達がケガをしています。

さて妊娠の確認には、以下の方法があります。

- 1) 直検によるもの
- 2) エコーカメラによるもの

直検では双子の場合分かりません。一方 エコーカメラは双子も分かるし、牡、牝も区別出来ます。

双子の場合、二頭無事に生まれる事は殆どありません。ほとんどの場合流産か早産、片方は馬のかたちをしているが、もう一方は馬の形にならないうちに死んでしまうことが多いのです。

この様にして試情、直検、交配、排卵確認、妊娠確認の一連の作業を2月中頃から7月の中旬迄繁殖牝馬全頭行なうわけです。

4、競売

今度は昨年生まれた馬、今年二才になる馬ですが競市に出すための準備をしなくてはなりません。まずサラブレッドです。今年の場合7月の26日に資源調査(展示)がありました。展示に向けての最後の調教に入ります。調教と言っても走るのではなく、車に乗る、人が引いて歩く、駆け足で走る、止まる、回る、じっと立っている、と言う様な訓練の事です。しかしこれが又大変なことなのです。ふだん自由に走り回っているものですからそんな簡単な訳には行きません。毎日毎日この様な訓練を行います。人間が馬よりも絶対に強いと言う事を覚えさせるのです。この様な訓練の日が展示日まで続きます。

展示日の前日には馬をきれいに洗ったり、体重測定、体尺測定を行います。馬を洗うと言っても簡単には行きません。シャンプーなどを使って水洗いしますが、水などかけられた事が無いのでおどろいて立ち上がったります。測尺は体重、体高、胸囲、管囲です。測尺値は展示日市場で発表され、購買者達の目安となります。

展示日当日、朝5時頃に一度セリに出す二才馬を放牧し、運動をさせておきます。六時半頃厩舎に戻し、手入れをして、七時頃には車に乗せて市場に向かいます。馬と一緒に人も馬箱に乗っていきます。私どもの牧場からだと、約30分位で市場につきます。市場に着いたら馬を降ろして馬房に入れ出番を待ちます。

9時頃から展示が始まりやがて出番がやって来ます。展示と言ってもただ見せるだけではありません。一頭ずつ立たせたり、歩いたり、回したり、駆け足で走ったりして購買者に売り込むのです。この時はまだ購買者と話しはしませんが、この後比較検査があり百頭前後の馬が並べられて他の馬と比較されるのです。何十人もの人達が一頭ずつ見て歩くのです。そうして馬の生産者にいくらで売りたいのか、性格はどうなのか、近親に走っている馬はいるのか等聞いてきます。色々説明しなくてはなりません。この間約一時間その間に馬の良い所を見せるようにします。これで売れるかどうか決まるわけです。

展示が終わると帰ってきます。一週間後にいよいよ競市です。その間ケガなどしないように特に気を使います。今年の競市は8月2日でした。競市当日は展示の日と同じように車に乗せて市場に連れて行きます。北海道市場は東洋一の市場と言われており、参考に本年度の出場頭数を表1に示します。

セリの日には北海道全域と東北地方からの馬が上場されます。セリの始まる前やはり展示の時のように比較検査があり、見くらべられます。

いよいよセリが始まります。番号順にセリ場の中に引き込まれ値段がつけられます。馬はセリ場の中のホールを回っているうちに、セリ人が「お代は、お代は」と2度ほど声をかけますが一声もかからない場合、生産者が希望する値段、何百万とセリ人が声をかけます。それを聞いて購買者がほしいと思えば手をあげてその値段でセリおとされます。購買希望者がたくさんいると、300万位の値段を付けた馬が1000万以上になることもあります。その反面一声もかから

ず100万の馬が主取りとなってしまいます場合もあります。主取りとは買い手がつかず生産者が引き取るという意味です。この2分間位のセリの為に丸1年かかって馬を育てている訳です。売れると売れないとは大変なちがいで、ガックリ、力が落ちてしまいます。

しかしガックリしてばかりもいられません。8月の末にはアラブの展示、9月の初めにアラブのセリ市があります。アラブもまたサラブレッドと同じ様にして売られます。さらに8月市場、9月市場で売れなかった馬も、もう一度売るチャンスがあります。10月の中頃に10月市場が開かれ売れなかった馬がもう一度セリにかけられます。

当場の生産馬サラブレッド4頭とアングロアラブ2頭は全頭売る事ができました。

表1 今年のセリの上場馬数

8月市場		出場頭数	売れた頭数
サラブレッド	牡、牝 計	1161頭	202頭
9月市場			
アラブ	牡、牝 計	859頭	427頭
10月市場			
サラブレッド	計	479頭	139頭
アラブ	計	238頭	62頭

表2 過去10年間北海道市場で売られた高額馬（1億以上高額順）

年号	馬の名前	年齢	金額	円
1989年	サンゼウス	2才	3億6050万	
1986年	モガミショーウン	当才	2億6500万	
1979年	ハギノカムイオー	当才	1億8500万	
1990年	ファーストクラス	2才	1億1845万	
1990年	クエストフォーヘスト	当才	1億815万	
1994年	ロイヤルブレーブ	2才	1億403万	
1990年	ワールドセイハ	当才	1億300万	

この様にして今年のセリ市が終わりました。セリ市で売れた馬はその後20日間当場で預かなければなりません。売買契約の中にセリ後最長20日預かると有ります。この20日間ケガなどさせないように特に気を使います。

5、離乳

秋から冬にかけてその年生まれた当才馬を離乳させる時期となります。当牧場の場合は、10月の1日に離乳させます。親子を別々の馬房に分けてしまうのです。初めて親と分けられてしまうので、それはもう大変です。乳がほしいのとさみしいのとでおおさわぎ、大きな声で泣く、馬房の壁を蹴る、馬栓棒にのぼる、立ち上がるなど一日中目を放す事ができません。一日中馬の見

える所にいなければなりません。3日目位から少し落ちついてきます。5日目か6日目位に外に出しますが、当才だけでは走り回って危ないので当场ではオトリ馬（子供を生まなかったおとなしい馬）と一緒に放しています。当歳馬は最初母馬と間違っけて寄って行きますが、違うことに気が付いて周りを捜します。しかし、見あたらないのでオトリ馬に寄らず、離れず今は一緒に草を食べています。やがてこの馬達も、次の年の8月、9月の定期セリ市で売られて行くのです。

6、一般飼養管理

この他に厩舎において毎日行う作業があります。厩舎に入っている全馬（大雨、大雪の日以外）は毎日放牧します。1995年10月1日現在厩舎には繁殖牝馬8頭、二歳馬6頭、当歳馬5頭、道産子牝1頭、計20頭います。この馬を繁殖牝馬は一群に、二歳は牝・牝別に当歳は牝・牝一緒に、種牝は別に放します。通常11月から6月迄は午前8時30分に放しますが、7月から10月の天気の良い日は宿直者が午前6時頃放します。

馬が放された後馬房のボロ（糞や尿で汚れた寝藁等）出しをしなくてはなりません。ボロを出した後は又寝藁を入れておきます。その後、飼い桶を洗う、水桶を洗う、切り草を用意する、馬房のクモの巣を払う、ろうかを掃く、配合飼料を調合する等の作業が続きます。その他に放牧地の水槽の水の補給、柵の見回り等があります。冬は乾草牧草を毎日放牧地に運んで馬に与えます。夏は夜食べさせる青草を刈ってきて、夜飼いのときに与えます。

夕方、全馬を厩舎に入れますが中に入る前にケガや、腹痛など無いか一頭ずつ注意して中に入れます。中に入れてから夜飼いの用意をして、飼い桶に切り草、配合飼料、塩等を混ぜて各馬に与え、一日の作業を終えます。

午後5時以降は宿直者が各馬のめんどろを見ます。宿直者は午後7時頃に一度厩舎に行きカラになった飼い桶を下げてきます。その後9時にもう一度厩舎に行き7時頃下げた飼い桶に草を入れ、配合飼料等をまぜて、全馬に水を飲ましてから夜飼いを付けて戻ってきます。又次の午前5時から5時30分に朝飼いを付けます。

この他定期的に行う作業としては、当歳、二歳の測尺（月一回）繁殖牝馬及び二歳、当歳、の削蹄（年に4回程度）、全馬虫下し（年4回程度）、インフルエンザ、流産予防、法定伝染病等の予防注射、子宮炎、伝質、鼻肺炎、登録、検査等があります。

軽種馬に与える飼料は乾草のほかに以下のものがあります。

エンバク	: 丸粒のエンバクを買って来て圧ベンする
大麦	: 皮つき圧ベン麦
エースメアー	: 繁殖牝馬に食べさすペレット状の配合飼料
エースレーション	: 二歳馬に食べさすペレット状の配合飼料
エースレーション2	: 二歳馬に食べさすペレット状の配合飼料
エースジュニア	: 当歳、離乳直前から年開け四月頃迄食べさす配合飼料
ルーサン	: 牧草であるルーサン（アルファルファ）を乾草させペレット状にした飼料
その他	: 塩、ガーリックなどの添加物
ビタミンE	: 発筋症予防の為のビタミンの粉末
クラシック	: ビタミンA、B、C、D、E、ミネラル、カルシウム、マンガン、鉄分等を含んだペレット状の添加物

この様な配合飼料、添加物、ビタミン等を切り草に混ぜて馬に与えるのです。

7、その他

この様な作業の他に、放牧地の管理、牧柵の点検、修理、通路の点検、補修、乾草牧草の収穫、収納、馬のケガ等の治療があります。馬の治療などはちょっとしたケガでも何週間もかかります。又冬は、雪が少ないのですが風が冷たく路面が凍りつくので、とても滑ります。砂をまいたりして、滑らないようにしてやらなければなりません。

特に妊娠している馬、セリに出す馬などはとても気をつかいます。又冬場は厩舎の中の温度も注意しなければなりません。外気温との差がありすぎたり、寒すぎたりすると、カゼをひきやすくなります。窓や戸などの開け締めなどで温度を調整します。

8、終わりに

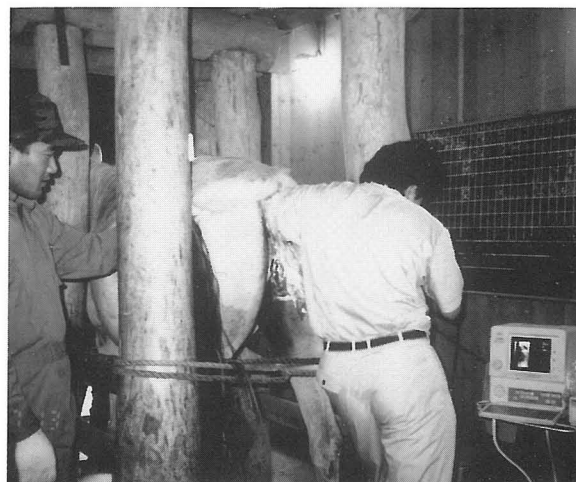
以上のような作業の経過を経て一頭の馬が生まれ、育ち、調教されてセリにかけられるわけです。セリで売られて初めて収入となる訳です。売られた馬はもう一度、今度は走るための調教を受けて、競走馬として生産者の期待を背負ってデビューするのです。

しかし、売れなかった馬は、牝の場合は繁殖牝馬として生まれた牧場に残る場合もありますが、やむなく肉用の馬として買われていく場合もあるのです。

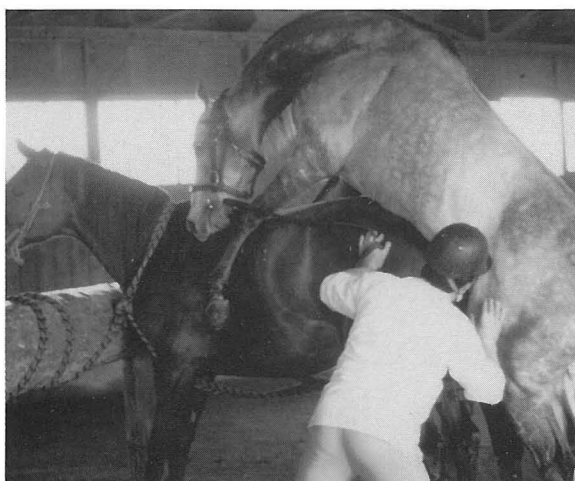
胆振・日高管内には、1000軒を超える軽種馬生産農家があり、日夜強い馬作りに努力しているのです。私たちも他の牧場に負ける訳にはいきません。先輩たちが長年かけてつちかった技術を受け継ぎ、よりいっそう努力して、強い馬づくりをしていきたいと思っております。



試情の様子



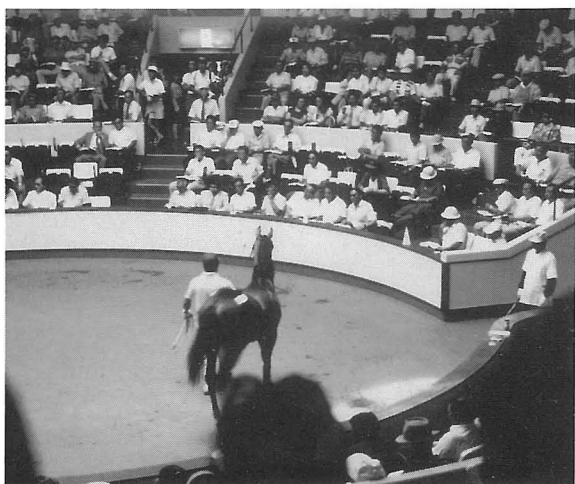
エコーカメラによる妊娠鑑定



交配の様子 種馬（ハクタイセイ）



セリ市場にて（比較展示の様子）



セリ市場



放牧